

2023 年度 放送番組審議会 議事録

(株式会社ジェイコム九州 福岡局)

日 時 : 2024 年 3 月 11 日 (月) 16 : 00 ~ 17 : 30

場 所 : 株式会社ジェイコム九州 福岡局 会議室

委 員 : 囑託委員 8 名中 7 名出席(敬称略、順不同)

(会長) 石井 幸孝

(委員) 木本 紳一郎、圓尾 容子、黒岩 俊哉、古瀬 恵

川崎 和夫、原田 清子

事務局 : 株式会社ジェイコム九州 代表取締役社長

上村 忠

常務取締役 福岡局長

海面 正人

取締役

宮島 哲瑞

福岡局 営業部長

林 剛史

JCOM 株式会社 J:COM プロダクション本部 映像制作第一部

リージョナルマネジャー 篠原 有

牧 幸生

谷川 麻鈴

1. 開会事務局挨拶 (株式会社ジェイコム九州 上村代表取締役社長)

番組審議会にご出席いただきありがとうございます。

年明けから能登半島の大きな震災、翌日には関連した航空機事故が起き、北九州では大規模な火災の発生などがあり、慌ただしく年が明けましたが、2023 年度の番組について皆様に評価と審査をしていただく機会を得られました。

短い時間でございますが、皆様のご意見を賜りながら、来年度以降の放送制作に活かしてまいりたいと思いますので、どうぞよろしく申し上げます。

2. 議事進行(石井会長)

国内外ともに多事多端な時代、さらに今年は元旦から波乱の幕開けでした。そんな中で、市民が平常心を失わずに生活をしていくよう、立派な放送をやっていくことが大事ですので、今日は忌憚のないご意見をよろしく願います。

3. 放送番組内容について

- 1) 2023年度 自主制作番組 制作方針
- 2) 2023年度 自主制作番組 実績報告

4. 審議

- 1) 審議対象番組 「ジモトトピックス」ダイジェスト視聴
- 2) 番組視聴後 審議・意見交換

委員)

スポーツに関して、子ども達のことはよく取り上げているが、国際大会なども放送してほしい。幅広く取り上げることで、スポーツファンがより見てくれるのではないか。

委員)

旬の情報や季節の情報がうまくミックスされている。知らなかったこともあり、他局が取り上げないような情報まで拾っている。

地元の隠れたイベントや素材を取り上げているところに存在価値を感じている。

委員)

「ジモト」と冠をつけているだけあって、地元のニッチな所をしっかりと取材している。良かった点は、参加した地域住民のコメントをしっかりと撮っていて、そのイベントの内容や参加した気持ちを紹介されているので、次にそのイベントがあったら自分も参加してみたいと思える作りになっていた。

気になった点は、概要がもう少しわかるようにテロップでフォローしてほしい。最初にタイトルはあるものの、概要をテロップでも伝えて、今後参加したいと思えるようにすると良いのでは。

委員)

丁寧な取材と安定した画質で、テロップ等も見やすく技術的なところは非常に高いと思う。気になる点は、トピックスが変わるときの切り替わり。例えば、バーチャルキャラクターのようなものを使って間を繋ぐようなユーモアを交えた形式はどうか。

誰がいつどこで何を、といったことだけでなく、そこに対する感情や気持ちなどを伝える時代になってきたと思うので、一言コメントのようなものがあると良い。

委員)

地域とのネットワークづくりに関して、最近イベントが増えてきている中で、よく色々な場所に取材へ出かけている。イベントを開催した時に J:COM に取材していただいたが、長い時間取材してくれて、良いものを作りたい、良いものを届けたいという思いが、主催者にまで伝わってくるのは有り難い。そんな中、堅さがまだ残っていると思う。

AIにできないことは、人間の心を伝えることだと思うので、感想コメントなど入れると良いのではないか。

視聴した「ジモトトピックス」のダイジェストに入っていた新宮のウォーキングイベントについては、道のりは何キロで、何分かかる、などの情報や、駐車場があるか、など関連する情報を伝えることで、視聴者が行ってみたいと思うのではないか。

委員)

2023年8月まで放送していたLIVEニュースは、途中で天気情報などがある中に、地域の情報が入っていた。ジモトトピックスは、地域の情報だけがまとまっているので分かりやすい。今は情報過多の時代なのでポイントだけ知れるのがいいと思った。

しかし、ポイントをまとめすぎると詳細がわからない。取材に関する詳細情報をHPに蓄積するなどできるのでは。

過去の出来事だけでは寂しいので、次以降や先の情報を知れる方が良い。

事務局)

皆様がおっしゃったようなニッチな情報をお届けすることを目指している。

市民サービスや行政施策を紹介する新番組「ぎQLASS」の放送を開始し、出演する行政の方々から好評いただいている。行政の皆さんが様々な施策をやっていて、広報誌等で発信されているが、より多くの市民に知ってもらえるよう、行政の方々に説明していただいている。見ていただける方が限定されたとしても、そういうメッセージ性を持ったものを作ろうと取り組んでいる。

委員)

ジモトトピックスで、地域と地域をつなぐことをしたことはあるか？

事務局)

ジモトトピックスではあまりないが、「居酒屋ゴリけん」のコンセプトの一つが地域をつなぐこと。色々な地域の方をゲストに招いて、お酒を飲みながらトークをする番組。それぞれの地域の良さや取り組みを話し、それを自分の地域にも取り入れようと考えたり、一緒に何かをするきっかけにさせていただいたり、それが番組の意図。

委員)

色々な地域の食材を使っているお店が福岡市内にあるので、現地まで行かなくてもこのお店で食べられる、など地域を繋げられたら面白いのではないか。頑張っている地域同士が繋がって、みんなでもっとやろうとしていることをアピールしてほしい。他局が扱わない所を扱うのがJ:COMの良い所なので、そういう取り組みも面白いと思う。

委員)

J:COMは熊本にもある。熊本は最近台湾のIT企業進出など、九州のシリコンバレーのような活況を呈している。熊本の情報は他局ではあまり紹介されないので、J:COMが福岡や北九州の視聴者に情報を発信したら、よい刺激になるのではないか。

委員)

J:COMのような番組は非常に大事。いまテレビは視聴率が取れないしスポンサーが見つからない大変な時代に入っている。スマホなどで見たいものを見る文化が日本で完全に根付いた。サッカーも本当に好きな人はスマホで観る。マーケットそのものが変わってきている。地元に着した情報を的確に伝えて、みんなが知らないことや楽しくなることを提案していくのは、今後非常におもしろいビジネスに繋がると思う。そのマーケットを見据えながら放送していくと良いと思う。

委員)

スポーツは、する、見る、支える。放送に関しては支えるの部分になる。メディアの力は非常に強い。メディアで発信されたことが広報になるから、J:COMがやっていることはとても素晴らしいこと。面白く、いかにして視聴者を釘付けにする番組を制作するかを考えてほしい。

委員)

地元の特化したものは非常に重要。海外作品の誘致をする時も「この土地にしかないものを教えてください」と言われるので、J:COMで情報収集をして紹介している。地元の特化した番組を続けた方が良い。

委員)

自分が映るかも、手が届きそう、そういう部分を持っていてほしい。役に立たないようなことでも、ニヤリとする情報があると良いのではないか。

委員)

地元の特化するのであれば、事前に細かく定期的にヒアリングを実施して、この期間はこの地域に力を入れる、などすれば番組への関心度が上がると思う。

番組を作るためにはかなりの情報収集をしていると思うので、地域とうまく交流できる仕組みを作るなどできれば、もっと良いものができるのではないか。

3) 自主制作番組 ダイジェスト視聴

4) その他番組 審議・意見交換

委員)

地元の方が出ていると、誰か知り合いが出ているのではと期待して見ている。そして「J:COMで見たよ」と言う会話を楽しんでいる。また、好きな出演者が出ていると、その人が行った場所に行ってみたいと思う。地域に根付いているのがJ:COMを見る楽しさ。

地域のことをよく知っている人に出演してほしい。地域の良さをもっと取り上げて、視聴者に良さをわかってもらえる番組づくりをしてほしい。

委員)

最近のメディアでは掘り下げた取材をあまり見ないので、紹介されているものの歴史や目的を感じづらい。J:COMが狙っているマーケットは非常に良い方向を向いていると思う。

「見るテレビよりも出るテレビ」、これがやはり大きい。高校野球の予選は、親御さんや校区の方は見たいと思うが、放送がない。テレビや新聞に出る人はすごい人のように感じるが、みんな人間。その人間というものを的確に取材・編集していると思う。ぜひこの路線を続けてほしい。

委員)

自分が出たことがある、誰か知っている人が出ているかもしれない、という部分で見られる番組。コンプライアンスや個人情報の問題などで一般市民がテレビに出づらくなっている中で、J:COMは地元深く入り込んでいるため許可取りができており、市民がたくさん出ている。そういった部分で見たくなると思う。

事務局)

子どもたちはカメラを見ると喜んで近づいてきてくれるが、保護者の許可が取れない場合はその素材を使うのが難しい。放送にあたり十分確認する必要がある。

委員)

安心安全はJ:COMの大きな一つの柱とのことだが、4月になると転入者が増えるため、防犯防災の不安を安心に繋げていくのがJ:COMの使命。同時に、自然災害時だけでなく気持ちの健康、マインドフルネスなど、体だけでなく心も健やかになる番組もあって良いのでは。

委員)

安心安全など地域の事例を発信する番組は、J:COMにとっても住む人にとっても財産になる。県外から福岡県に引っ越したいと思っている人が多いので、行政などにコンテンツを販売しながら地域を知ってもらうような取り組みをしてもいいのでは。

アフターコロナと言うが、貧困の格差などは元の状況には戻っていない。心の幸福度をあげられるような、楽しい気持ちになる番組があると良いのでは。

委員)

初めて会う人がどんな人か調べたいときに、文字情報よりも動画の方がわかりやすい。

YouTubeやnoteなど（WEBサービス）を活用しながらアーカイブしていくことは有効になると思う。

noteのJ:COM記事としてジモトトピックスの内容を投稿してもいいのではないか。自分が関わったものがアーカイブされてネット検索で出るのは嬉しいもの。

事務局)

出るテレビを良いと言って頂いた。我々の考え方は間違っていないと感じたので、そこをますます推進していきたい。今日頂いたご意見を参考にして良い番組作りをしていきたい。

5. 閉会挨拶（株式会社ジェイコム九州 常務取締役 福岡局長 海面 正人）

本日はありがとうございました。

様々な意見を頂戴したので、これからの番組作りに役立てていきたいと思えます。

以上、閉会